

## 答 辞

暖かい日差しが私たちを照らす、今日この日、私たち卒業生のためにこのような素晴らしい式典を挙行していただき、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

入学してから今日までのことを振り返ると、たくさん思い出が蘇ってきます。これからの学生生活への期待と不安の入り混じる中迎えた入学式は、コロナの影響で学科ごとに教室に分かれ、遠隔で行われました。ほとんどが初めて会う人で、友達が一人もいない状態で迎えた最初の授業は、自分から話しかけることができず、これからずっと一人なんじゃないかと思っていました。いつのまにか友人ができ、今では何を考えているのか分かるくらいの仲にまでなりました。一年生の時は特に、遠隔授業と対面授業を繰り返しながらの学生生活でした。せっかく仲良くなった友人とも会える時間が少なくなっていて、寂しいと感じたこともありましたが、その分会えたときの喜びは大きかったことを覚えています。

私の所属する食物栄養学科では、栄養士免許取得に向けて日々勉強に励み、沢山の講義や実習、実験で栄養士になるための必要な知識や技術を二年間学びました。高校まで習っていた教科とは全く違った分野であったため、毎回の授業で行われる小テストに真剣に取り組むことはもちろん、事後学習にも力を入れ、知識を定着させていきました。

二年生になると、実際に施設に訪問する実習が始まり、私は病院に行きました。実習では、ただ調理をするのではなく、患者さんの症状に合わせた献立作成や糖尿病教室の見学、調理場の衛生状態を調べる菌検査や行事食に付けるカード作成などを行い、現場の雰囲気と仕事内容を知ることができました。特に私が入力したのは、症例に合わせた献立作成です。普通の献立を考えるだけでも大変なのに、必要な栄養素と制限しなければならぬ栄養素が沢山あり、基準値内にしつつ、良い献立に

するのにとっても苦勞しました。家に帰ってもその日の課題に追われ、逃げ出したくなる時もありましたが、一緒に頑張る同じ班の仲間や友人から励まされ、最終日までやり遂げることができました。

この二年間を貴重な時間にするのができたのは、ご指導してくださった先生方、大切な友人、どんな相談にも乗ってくれた家族、部活の先輩後輩など多くの方の支えがあり、応援してくださいましたからだと思います。

これから私たちは、別々の道を歩むこととなります。例え辛いことがあっても、松山東雲短期大学で過ごした二年間を思い出し、それぞれが学んだことを社会の中で活かしながら前を向いて進んで行きたいと思えます。

最後に、学長先生をはじめ、先生方、職員の皆様、地域の皆様、そして支えてくれた家族に心から御礼申し上げます。後輩の皆様方のご活躍と松山東雲短期大学のますますのご発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

二〇二三年三月十日

松山東雲短期大学 卒業生代表 笹田 愛里